

TEAMSTUDIO® UNDO

Notes®の“Undo”機能

- ④ 設計変更履歴の自動保存
- ④ 過去の変更履歴を容易に参照
- ④ 変更履歴を指定し、設計をその状態へ簡単にロールバック



多くの開発者は開発にミスが無いことを前提に作業を進めますが、実際にミスは発生します。不運にもミスが発生した際、以前作成した過去の設計バージョンを探し回ったり、コンピューター上のごみ箱を掘り起こしたり、コードをつぎはぎしながら修復するのは非常にコストのかかる作業です。念入りにアプリケーションのバックアップを行っている開発者でも、複数の設計バージョンの中から、設計要素単位で必要か必要でないかを選定し、もとの状態に戻す(Undo)作業は、効率が悪いばかりか、非常に危険です。往々にしてこのような作業は、時間も大量に浪費しがちです。

Teamstudio® Undoは、例えると取消機能(Undo)付きの自動安全装置システムで、数時間、場合によっては数日にわたって、そのリカバリーが必要となるミスを恐れることなく開発を進めることができます。

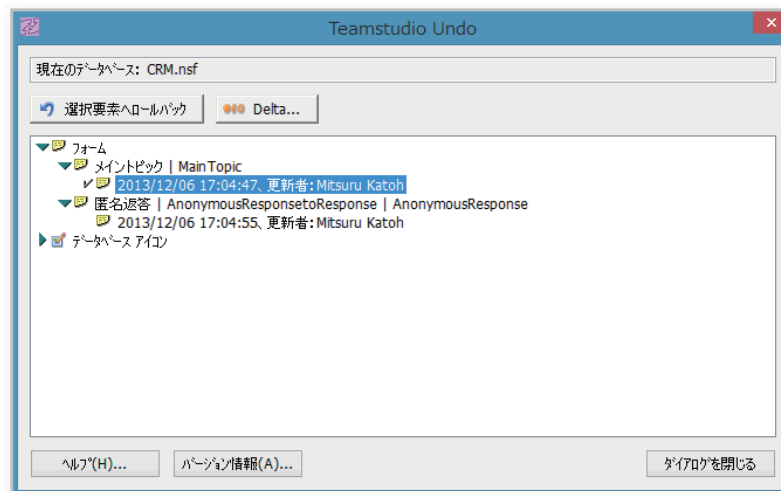
関連製品

- ④ TEAMSTUDIO CIAO!®
- ④ TEAMSTUDIO CONFIGURATOR
- ④ TEAMSTUDIO DELTA

CTRL+Zを超えて

開発者が設計の変更をテストする際、Domino®Designerで設計をコピー／貼り付けし、「コピー～」、「別のコピー～」、さらには「コピー別のコピー～」などの設計のバックアップを作成します。これが開発の正常な方法といえるでしょうか?いいえ、もちろん違います。しかし、元の状態に戻す必要がある場合には、他にどのような方法があるでしょうか?

Teamstudio Undoがあれば、開発者はコピー/貼り付けに依存する代わりに、Undoが設計変更を自動保存してくれるので、保存されている過去の変更履歴バージョンをすばやく取り出すことができます。



UNDO で指定した要素のバージョンヘロールバック

CIAO!®と組み合わせて使用し安全性をより強化

企業内でアプリケーションの設計バージョンを管理する場合、1) 開発者個々人が現在プロジェクトで担当するデータベース改修作業に必要なバックアップ、2) 企業全体で実践されるバージョン管理、のふたつが必要です。前者をカバーするUndoのみならず、開発環境にTeamstudio CIAO!®の導入して完全な設計バージョン管理をお奨めします。UndoとCIAO!®を組み合わせることでアプリケーションの完全な保護が実現します。設計要素が個々の開発者の手の中にある間はUndo、アプリケーションは今のメジャーリリース、バグフィックスリリースなどのライフサイクル上での区切りにある段階ではCIAO!®を使用し、バージョンを作成します。CIAO!®は、チェックイン/チェックアウトおよび簡易的なアプリケーション・リリースのプロセスの機能を提供しています。